



東幡豆漁協の石川組合長が干潟に棲むトゲモミジガイ（貝類を食害する）解説。現況の干潟は、多くの潮干狩りで賑わっていた。周辺の表層はアサリが採られ、シオフキが多く残留する。周辺にはマテガイも普通に生息していた。右写真は参加者が食塩を使ってマテガイを採る様子。

写真左・右：周辺の表層（現況の干潟）で採取した底生生物のサンプル（下表参照）

底生動物		マクロベントス・その1							
No.	門	綱	科	種	殻長 (cm)	殻高 (cm)	殻幅 (cm)	湿重量* (g)	採取場所など
1	軟体動物	二枚貝	バカガイ	バカガイ	6.50	4.70	3.20	51	外縁、現況の干潟面(砂質)
2	"	"	"	"	5.12	3.95	2.45	25	"
3	"	"	"	"	5.35	3.95	2.50	27	"
4	"	"	"	"	5.00	3.30	2.30	21	"
5	"	"	"	"	4.40	3.20	2.00	14	"
6	"	"	"	"	1.50	1.05	0.53	0.5	"
7	"	"	"	シオフキガイ	3.80	3.20	2.37	17	"
8	"	"	"	"	2.70	2.32	1.60	5	"
9	"	"	"	"	2.67	2.25	1.48	5	"
10	"	"	"	"	2.85	2.55	1.67	6	"
11	"	"	"	"	2.45	2.20	1.40	4	"
12	"	"	"	"	2.33	2.10	1.25	3	"
13	"	"	マルスダレガイ	アサリ	3.85	2.70	1.95	15	"
14	"	"	"	"	3.35	2.40	1.70	8	"
15	"	"	"	カガミガイ	5.32	5.10	2.51	47	"
16	"	"	"	マテガイ	9.00	1.25	0.95	11.5	"
※生重量									
底生動物		マクロベントス・その2							
No.	門	綱	科	種	殻長 (cm)	殻幅 (cm)	殻高 (cm)	湿重量* (g)	採取場所など
17	軟体動物	腹足	タマガイ	ツメタガイ	4.83	5.63	3.3	53	外縁、現況の干潟面(砂質)
18	"	"	"	"	3.85	4.60	2.8	36	"
19	"	"	"	"	2.20	2.65	1.45	6	"
20	"	"	ムシロガイ	アラムシロ	1.70	1.00	-	1	"、タテジマフジボ付
※生重量									
底生動物		その3							
No.	門	綱	科	種	殻長 (mm)	殻幅 (mm)	殻高 (mm)	湿重量 (g)	採取場所など
21	節足動物	軟甲(エビ)	ホンヤドカリ	ユビナガホンヤドカリ	-	-	-	0.5	外縁、現況の干潟面(砂質)
22	棘皮動物	ヒトデ	モミジガイ	トゲモミジガイ	-	-	-	41	外縁、現況の干潟面(砂質)
23	"	ウニ	オオバフンウニ	バフンウニ	-	-	-	-	(石川 東幡豆漁協組合長採取) 外縁、現況の干潟面(砂質)
※生重量									
植物(海藻)									
No.	綱	科	種					採取場所など	
24	褐藻	カヤモリ	フクロノリ	膜状の袋:直径1~5cm				標柱の下方に付く	

〈参考資料〉参加レポート

平成 27 年 6 月 6 日

○ 催事名 矢作川流域圏懇談会 ダム干潟見学会
報告者 矢作川環境技術研究会 事務局 野田賢司

項目	内容
日時	平成 27 年 3 月 21 日 (土) 11:30~14:00
場所	東幡豆トンボロ干潟 (西尾市幡豆町)
主催	矢作川流域圏懇談会 (事務局 国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所)
内容	<p>1. 概要</p> <p>平成 26 年度、矢作川流域圏懇談会の海部会 (青木座長・鈴木副座長) で WG (ワーキンググループ) 作業部会が計 8 回実施された。この中で関係者の意見交換から、失われた干潟を山川海の連携によって再生し、親しみ易く豊かな海を取り戻すための切っ掛け作りとして「矢作ダム砂を用いた干潟の試験造成」が提案された。そして、この試験造成を市民や山や川の民を含む様々な関係者が流域圏一体となって実施することが、様々な障害を乗り越える契機にもなるものと期待された。</p> <p>この方針から懇談会関係者 (矢作ダム、三河港湾事務所、東幡豆漁協他) の協力によって、干潟の試験造成が実現した。今後は、ダム砂の効用を流域全体の人々によって確認して土砂問題の認識を共有し、流域の土砂問題解決に向けた取り組みに繋げる意向である。今回はダム砂投入直後の現地 (矢作川流域圏懇談会干潟) 観察会で、山川海部会の参加で現地状況を確認し、来年からの現地調査など様々な活動について意見交換することを目的としたものであった。</p> <p>2. 行程</p> <p>11:25 東幡豆トンボロ干潟集合 (東幡豆漁協・潮干狩り受付本部前)</p> <p>11:30~12:30 東幡豆トンボロ干潟、矢作川流域圏懇談会干潟の調査</p> <p>13:00~14:00 昼食 (海辺の岡田屋)</p> <p>14:00 解散</p> <p>3. 内容</p> <p>(1) 干潟調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム砂投入箇所の確認 (別紙のとおり) ・今後の生き物調査や活動展開に関する意見交換 <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食 (海岸近く 民宿 岡田屋)
摘要	<p>・出席者 以下の 11 名。</p> <p>市民個人: 2 名</p> <p>市民団体: 伊勢・三河湾流域ネットワーク、西三河野鳥の会、矢作川環境技術研究会</p> <p>関係団体: 東幡豆漁業協同組合、根羽村森林組合</p> <p>学識経験者: 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻社会基盤工学部門 青木伸一教授、 全国水産技術者協会 東海・北陸支部 石田基雄支部長</p> <p>事務局: 国土交通省豊橋河川事務所</p> <p>・配付資料: 一式 (4 枚)</p>



トンボロ干潟全景 (海岸から)



同左・矢印：干潟の試験造成位置



矢作川流域圏懇談会干潟 (東方向)



同左 (西方向)



同上・表面の投入したダム砂



南端 (干潮線) から東方向



南端 (干潮線) から西方向



同左・干潮線付近 (緑藻・褐藻が繁茂)



南端干潮線上の玉石 (アオサ類が疎ら)



西端干潮線上の玉石 (アオサ類・アミジグサ類)



周囲の標柱に付くアオサ類・ムラサキイガイ



同左・タシマイギンチャク・シロシヅク・イカメン



造成干潟：細礫～粗砂多く底生生物は未棲息



トンボロ干潟：細粒砂、砂漣、コアマモ片等



造成干潟の脇・現況干潟に底生生物多く棲息



同左 (左上)：アオサ類と紅藻のオゴノリ